

第 7 回豊島区自治推進委員会 会議録

附属機関名	豊島区自治推進委員会（第 7 回）		
主管課	区民部区民活動推進課		
開催日時	平成 20 年 6 月 6 日（金）18 時 30 分～20 時 00 分		
開催場所	生活産業プラザ 6 階 研修室		
出席者	委員 （名簿順・敬称略）	磯部力（会長）、金井利之（「協働・政策部会」部会長）、小原隆治（「地域協議会部会」部会長）、石川陽子、片倉恵美子、小林恵美子、坂本勇、鈴木正美、高橋昭平、田中幸一郎、富樫知之、春田稔、余吾育信、島村高彦、堀宏道、垣内信行、渡邊文雄 以上 17 名、欠席者 3 名	
	専門委員	長野基（地域協議会部会）、原田晃樹（協働・政策部会） 以上 2 名	
	区側出席者	齊藤忠晴（区民活動推進課長）、【事務局】矢作豊子（区民部副参事）、阿部治子（区民活動推進課自治協働推進担当係長）	
公開の可否	公開	傍聴人	0 名
会議次第	1. 開会 2. 各部会の検討課題について 3. その他 4. 閉会		
審議経過	＊各委員については本日の発言順に A 委員、B 委員…で記載しています。		
【発言者】	【議事・発言要旨】 1. 開会 ＊出欠者の確認 ＊傍聴人の確認 ＊本日の会議資料の確認		
区民部副参事	定刻となりましたので、第 7 回豊島区自治推進委員会を開催させていただきます。 では早速ですが、議事の進行を、会長よろしくお願いいたします。		
会長	皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。前回の委員会では、会議当日の思わぬ急病で大変失礼をいたしましたことを、お詫び申し上げます。中間報告の提出という大事な節目でもありましたので、私としましても心苦しく思いましたが、職務代理の小原先生はじめ、委員の皆様により、無事に区長に提出をしていただき、感謝申し上げます。4 月の中間報告で一区切りがつきまして、5 月から部会審議がもう始まっているわけですけれども、本日から更に着実な審議をよろしくお願い申し上げます。 議題に入ります前に、会議録の公開についてお諮りいたします。4 月 18 日に開かれた第		

<p>会長</p>	<p>6回委員会の会議録、事前にお送りしておりますのでお目通しいただいていると思います が、何か修正点、お気づきのことなどございませんか？</p> <p>(※各委員からの発言なし)</p> <p>特にございませんようですので、これについてご承認いただいたものとして公開とさせていただきます。</p> <p>それでは、本日の議事次第に沿って進めてまいります。本日の議題としましては、次第 2の「各部会の検討課題について」ということになります。これについては先月、各部会 がそれぞれ開催をしていただきまして、そこで一定の整理をしていただいております。そ れを事務局でまとめたのが、会議資料7-2ということになるわけです。これについても、 既に事前に皆様にお送りしてお目通しいただいているとは思いますが、改めて簡潔に事務 局から説明をお願いしたいと思います。</p>
<p>区民部副参事</p>	<p>2. 各部会の検討課題について</p> <p>それでは、会議資料7-2について説明させていただきます。</p> <p>まずお手元の資料1枚目、「各部会の検討課題とスケジュール（案）」をご覧ください。 いま会長からお話がありましたように、先月、「地域協議会部会」「協働・政策部会」そ れぞれ部会を開催していただきまして、そこで整理していただいたものです。来年2月の 「最終答申」に向けて、こういったスケジュールでということと、その期間にこういった 課題を考えていくかというものを一つの表にまとめたものです。</p> <p>前回の委員会でもお話しいたしましたが、モデル事業等の予算を伴う課題につきまして は、役所の予算編成スケジュールに合わせていただく関係もありまして、10月を目途に考 えをまとめていただきたいということで、一度「中間答申」をいただき、最終的には来年 2月のゴールを目指していただくというスケジュールになります。</p> <p>そこで、前半戦・後半戦ということになりますが、前半戦については、主にモデル事業 を中心に議論していただくことになります。</p> <p>「地域協議会部会」については、中間報告で出されております“地域協議会モデル事業 （課題1）”と“土壌づくりモデル事業（課題2）”の具体的なあり方について、ご検討い ただくことになります。また、その“あり方検討の前提（課題3）”になりますが、豊島区 の地域の現状を踏まえてモデル事業制度設計していく上で、地域区民ひろばや様々な既存 の組織との関係も、一定の議論をいただくことになります。</p> <p>一方、「協働・政策部会」は、論点として“補助金”と“事業委託”と“中間支援組織（区 民活動センター）”が、協働の支援策として中間報告の中で整理されていた部分です。それ について、補助金と事業委託ですが、“協働事業補助金（課題1）”と“提案型協働モデル 事業（課題2）”についてご議論していただくことになります。</p> <p>もう一つ、「協働・政策部会」では大きなテーマがあります。“政策の形成過程での協働・ 区民参加”ということで、既に中間報告の中でもご説明いたしましたが、区民意識調査に 基づいて区民ニーズを反映した形で“基本計画・重点施策の見直し（課題3）”という作業 があります。</p> <p>以上が、それぞれの部会の前半の課題ということで、今日の委員会の後それぞれ議論し ていただくスケジュールで、おおよそ3回ぐらいが限度になるかのではないかと思います。</p>

8月は夏休みということもありますので、それまでに集中的にご議論いただき、8月の期間は、事務局で意見集約を図りながら部会報告案をまとめ、それを9月に再び委員会を開催して報告し、議論していただいた上で、10月の「中間答申」という流れであります。

後半戦ですが、いずれの部会も中間報告の中で一定の論点整理をされているものについて、より具体的なあり方を検討していただくのが課題になります。

「**地域協議会部会**」では、課題4（論点1）**設置エリア**、課題5（論点2）**組織・構成**、課題6（論点3）**役割・位置づけ**ということで、それぞれ「地域協議会」の具体的なあり方を、もう少し詳細に詰めていっていただきます。

「**協働・政策部会**」では、“協働事業補助金”は課題1として前半戦でやりますが、もう少し大きな枠組みでの課題4：**補助金のあり方**。それから“事業委託”についても、もう少し大きな枠組みでの仕組みづくりとして課題5：**総合評価型事業委託制度**を議論していただくこととなります。

また、課題6：**政策形成過程への区民参加の仕組み**ということで、実際に重点施策の見直しは前半戦の課題で行っていただきますが、“基本計画の継続的な進行管理”の仕組みとといったことについて、更に具体的に検討していただくのが課題となります。

後半戦についても、10月の委員会後、それぞれ3回程度の部会を予定しております。年内に課題を詰めていただきまして、年末に事務局でその議論をまとめて、1月の委員会でご報告させていただき、2月に「答申」として出していくという流れでお願いしたいと考えております。1枚目は、全体の大枠の流れとしてのご説明であります。

資料の2枚目、「**中間答申に向けた検討の進め方**」をご覧ください。当面「中間答申」に向けてどういった検討を進めていくかということです。これについては、各部会で先月開催され、議論していただいた範囲の中でまとめたものです。

「**地域協議会部会**」は、中間報告では制度についてのあるべき掬について、一定程度まとめていただきましたが、『**豊島区の現状を踏まえたモデル事業の展開**』では、具体の地域に下ろしていく話になりますので、豊島区の地域施策、あるいは地域の現状を踏まえて、“モデル設計”をしていただくことが大きな課題になります。

○**豊島区固有の背景の確認**

いくつかある背景として、①**出張所制度改革**（平成12年）。②**地域区民ひろばの展開**。いま区で地域ブランドとか、未来戦略推進プランの地域別事業計画などで取り組みは始めている③**地域を軸にした施策展開**。また、④**地域の現状**といったことも踏まえて、モデル事業を検討していただきたいと思っております。

実際にそうした場合にいくつか論点が出てくると思いますが、**モデル事業の制度設計にあたっての考え方（論点の例示）**として、“区内全域で一斉に試行”か“特定地域で先行的に試行”といった論点。あるいは、“組織化優先のアプローチ”か“ミッション優先のアプローチ”で組織をつくることを重点に置くのか、それともその協議会で何を協議していくのかに重点を置いて制度設計をしていくのかといったことを論点のきっかけとして議論を進めていただきたいと思いますと考えております。

一方、「**協働・政策部会**」は先ほど申し上げたように、「**協働事業**」モデルと「**重点施策**」の**見直し**という二つの大きな課題があります。

まず、補助金と事業委託の関係ですが、現在区で行っております「区民活動支援事業補

区民部副参事	<p>助金」の中で、毎年度審査するのはいかなるものかというような、継続的に取り組まれている協働的な事業を、「協働事業補助金」という新たな枠組みで制度設計していくというのが、一つの考え方です。</p> <p>○協働事業補助金のあり方</p> <p>⇒ 協働事業選定基準・評価基準 ⇒ プロポーザル型モデル事業の制度設計</p> <p>その際には、協働事業とはどのようなものかという選定基準あるいは協働の効果を検証する評価の基準についても議論いただきたいと考えております。</p> <p>そういう補助金を取っ掛かりとして、協働事業の枠組みをある程度明確にした上で、実際に行政側が地域に下ろして行きたい事業を抽出して、それに対して手を挙げていただく、“提案型（プロポーザル型）モデル事業”として考えておりますが、そういうモデル事業の制度設計をしていただくものです。</p> <p>○基本計画・分野別計画の重点施策の見直し</p> <p>先ほどお話ししましたように、昨年度実施いたしました“区民意識調査”の結果を踏まえて、3年前調査と比較検証し“区民ニーズの変化に対応”して“重点施策の見直し”案を具体的に作っていただくのが課題になります。</p> <p>以上が検討の進め方です。説明はこれで終わりにさせていただきます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。資料1枚目の今後のスケジュールですが、中身については後にして、大まかなスケジュールや流れに関していかがでしょうか。</p> <p>それぞれの部会では検討済みとは思いますが、前半・後半と、うまくいきますか？</p>
区民部副参事	<p>案ということで、一応予定としてはこういう形で進めていけるように、事務局としても考えておりますが、進めていく中で議論が足りないとかそういう部分も出てくるかと思えますので、それは臨機応変に対応していきたいと考えております。</p> <p>ただ、どうしても予算編成が11月にありますので、モデル事業について来年度実施の方向で検討が進んで行くとするれば、11月を目途にさせていただきたいと考えております。</p>
会長	<p>というわけで、この7月末までに開催するのは、それぞれの部会で3回ずつですね。</p>
部会長（協働・政策部会）	<p>この前、区長に提出したのは「中間報告」ですよね。今年の10月の委員会の後に出すのは、「中間答申」という名前なのですか？</p>
区民部副参事	<p>はい。</p>
部会長（協働・政策部会）	<p>単に名前だけの問題なのですが、その名称がやや紛らわしいと感じました。</p> <p>もう一つは、前回の部会でも問題になったのですが、予算の関係ですと、どうしてもこの時期でないといけないというお話しだったのですけれども、これは“補正予算”とかでは対応できないものなのですか？</p>
区民部副参事	<p>2月に「答申」をいただいて、来年度、補正予算を組むということでしょうか？</p> <p>そういう方法もあり得るかと思いますが、原則としては来年度の新規事業として出していくという筋で、進めていければと事務局は考えております。</p>
部会長（協働・政策部会）	<p>別に、いまから延ばすつもりはないのですが、3回でうまくまとまれば良いのですが、そうでないと“生煮え”のまま出すことになるので、「答申」があった後に予算の議決にな</p>

部会長（協働・政策部会）	りますから、何となく本来はそこで盛り込んでいただいても良いのではないかという気もするのです。
区民部副参事	その辺はまた状況に応じまして、事務局でもいろいろな方策を工夫したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
会長	最初に言われた点について、「中間報告」「中間答申」「最終答申」というのは紛らわしいのでネーミングを変えてはどうかということですが、「中間答申」と「最終答申」の関係は、「第1次答申」「第2次答申」という関係ではなくて、「中間答申」部分は、「最終答申」の一部を構成するということなのか、それとも、「中間答申」で出された部分を除いた残りの部分を「最終答申」とするのでしょうか？
区民部副参事	イメージとしては、1段、2段という感じで考えておりますので、「最終答申」はその残された部分と合わさって「答申」というイメージで考えております。
会長	それでは第1次答申、第2次答申と。
区民部副参事	はい。
会長	かなり大事な第1次答申ですね。
区民部副参事	そうですね。ただ、議論が生煮えのままというふうに、いま部会長（協働・政策部会）からもご発言がありましたけれども、固まらないでは予算の手を挙げるということも難しいので、その辺につきましてはこれから議論を進めて行く中で、もし第1次答申としてまとまらないということであれば、それを最終答申のほうに持ち越すということも考えられると思います。
会長	「中間答申」という名前でのいのかどうかということですが、そのほうが、後で可塑性が残っていて、実務上取り扱いやすいのだというならば、それはそれで一つの知恵かもしれません。
区民部副参事	議論の流れに従って、もしそれが持ち越すようであれば「中間答申」というほうが良いのかなと思いますし、結論が一定程度出ているということでしたら、「第1次答申」の名前に変えることも可能だと思っております。
会長	では、その辺は少し残しておいて、それから、最初から遅れることを想定するわけではなくて、一番大事な予算化に結びつくようなものを中心に精力的に前半戦をやって行ける所まで行く、そして固めるということですね。 それが終わってから、すぐに走り出すのではなくて、それを眺めつつ区内で準備をしていただいて、来年度予算化にスムーズに結びつけられるようにしたいということですね。
区民部副参事	はい。
会長	後半戦は、お金にはあまり関係のない、理念的な制度や基本的なことをしようという理解で良いですね。
区民部副参事	はい、その通りでございます。
会長	「最終答申」は一冊の報告書の形を取るのでしょうか。仮に「第1次答申」が出ていた

会長	としても、それを含むような形で合冊になるのですか？
区民部副参事	まだ具体的なイメージは、そこまで持っていないのですが、合冊にしても特に問題はないでしょうし、同じ内容であれば別に合冊にせず、10月にいただいた答申は答申として、残りの部分は残りという考え方で良いのかなと思っております。
会長	いかがでしょう、何かございましたらどうぞ。 (*各委員からの発言なし) おおよそのスケジュールは、だいたいそういう了解が得られたということですね。 2枚目の「中間答申に向けた検討の進め方」について、それぞれの部会に関してというよりは、所属しておられない部会の問題などに関して、ご質問とかご意見ございましたら、どうぞ。 (*各委員からの発言なし) これまた、言わずもがなの質問かもしれませんが、モデル事業という意味合いは、モデルなのだから、特定の地域でやるわけですね。 例えば、「地域協議会部会」では、区内全地域に当てはまるような“標準寸法の既製服モデル”を作るのか、特定の地域の個性に対応した“オーダーメイド的なモデル”を考えていくのか。これは常に問題になって、どっちとも言い難いわけなのですが、その辺のお考えはおありですか？
区民部副参事	その辺を議論していただきたいというのが事務局の考えなのですが、事務局としては「地域協議会」というのは新しい仕組みになるわけですので、それを地域に設けて行く場合に、やはり地域のご理解とか「地域協議会」の意義を、地域の皆さんに実感していただくというのが一番重要なポイントになってくると思っています。 ですので、そういう成果の見えるようなモデル事業をする場合に、どういった形が良いのかという視点で議論をしていただければと思っています。あまり制度論というところにはこだわっておりません。
会長	2枚目左の欄、真ん中の“区内全域で一斉に試行”か“特定地域で先行的に試行”というところに幅がありますが、どういうふうに理解して良いのでしょうか？
区民部副参事	幅がある中で、どういった形を取るかというところを部会の中でご意見をいただいて、良い形を探っていただければと思っています。 例えば、特定地域でも一地域に限定するのか、あるいは数ヶ所やるかというような比較検証するという意味で、違う地域のタイプでやるということも考えられるでしょうし、その辺、幅があると思います。
会長	“組織化優先のアプローチ”か“ミッション優先のアプローチ”というのも、幅があるということですね。
区民部副参事	そうです。
A委員	せっかく議員の先生がいらしていますので、ちょっとご意見をお訊きしたいのですが、この「地域協議会部会」は現在こういう状況で、モデル事業に関してもはっきりしていないのですが、議員の先生から見て「こういう状況で本当に実現できるのか」という

A委員	<p>ようには思われませんでしたか？「もう少しこういう案はどうか」というサポートや「こういう方向もあるのではないか」など、ご意見をお聞かせ願いたいのですけれども。</p>
B委員	<p>私は部会に出ていないのでどういう議論があったのかわかりませんが、このあいだは、一応考え方を示されて方向性を出されたまでは良いのですけれども、今回示された進め方もそうですし、部会のあり方の展開の仕方が非常に発展したという印象を受けました。</p> <p>これからの課題という点では、整理されていたのですけれども、では具体的にこれを推進していこうとなったときに、いま現在のこのモデルとなるようなものを「地域区民ひろばを核として」と書かれていますけれど、いまご質問にあったように、私は率直に言いまして、すぐに調整しながらこうした考え方の方向に行けるような土壌にいまあるかどうか、という点からすれば、相当疑問です。</p> <p>各地域の実情、進んでいるところも何点かは見受けられることもありますが、地域区民ひろばを核として、いろんな自主運営・自主管理を目指した取り組みだとか、いろんな人たちが集まって喧々諤々やっているところもあれば、それが始まったという段階のところもあれば、全くそういうものもできていない地域もあるのです。</p> <p>ですから、始まったところからは、かなりやったこともあるのですけれども、しかし地域によっては、その参加者をなかなか募れないところもあったり、「地域区民ひろば」を展開している場所によっても、ちょっと違うところもあります。施設が「ことぶきの家」だったところで対応しているのもあるし、「児童館」だったところで対応しているところもあったりしていて、そこにはやはり昔からの長い歴史があるものですから、「地域区民ひろば」という、区が求めているものがうまくいっていないところもあるのです。</p> <p>ですので、そこから「地域協議会」をどういうふうに立ち上げ、進んでいくのかについてイメージが湧かないというのが率直な感想です。</p>
会長	<p>ほかの先生方も、お願いします。</p>
C委員	<p>地域協議会部会でいろいろとご議論いただいていること、その中で最終的にはこういうところに壁にぶち当たるだろうな、というのは予想の中にありました。</p> <p>やはり、ある一定の目的が地域に合った場合には、まちのかたやNPOのかたなど、それぞれの志が一つになったときに、これが盛り上がるのだと思うのです。</p> <p>やはり“地域としてのテーマ”というものがしっかりと確立されていない以上は、なかなか「地域協議会」というものを設立しても、前に進んで行かないのかなと。</p> <p>地域として困っていることだとか、例えば「豊島区としてこういう開発があるのだけれども、まちづくりについて、協議会で議論していきましょう」といったテーマがあれば、「地域協議会」がいろいろと動くための“エンジン”になるのです。</p> <p>掲げている理念といったものはとても素晴らしいと思うのですけれども、やはり、その目的、そのエンジン部分というものがしっかりしないと難しいのかな、というのが率直な感想です。</p> <p>ですから、地域それぞれの困っていることだとか、地域それぞれの人たちがこれをしたというものが一緒にならないと、議論をしていってまとめていくのは、なかなか難しいかなというのが私の印象です。</p>

D委員	<p>私も部会には全然出席していないので、具体的なお話しが良くわからないのですけれども、ただ一点、これほど難しい課題をここまで明確にさせていただくのは、相当すごいことだなと感慨深く、同時に感謝申し上げます。</p> <p>ただ、いままでお話しがあったように、各地域にある各団体というのは、やはりそれなりに長い活動歴の中で、自分のエリアというか団体意識を強く持っておりますので、その団体意識と、この新たに誕生する「地域協議会」の方向性が一致すれば、ある程度進んで行くということは考えられるのですけれども、いきなりこれを何も周知をしない段階で始めてしまうところに、一つ大きな課題が生まれてしまうのかなと思います。</p> <p>ただ、このあいだの阪神淡路大震災のときに、どの地域だったか名前は忘れてしまいましたけれども、一地域だけ「まちづくり協議会」という団体がありまして、そこでは町会だとかPTAだとか育成部だとか地域の防災・防犯の団体など、すべての団体が、その「まちづくり協議会」に参加していた地域がありまして、そこが唯一被害の度合いが非常に少なかったと聞いております。</p> <p>そういうところは、やはり各種団体が日頃から他の団体との強い交流を持っていたということで、その「まちづくり協議会」に該当するような「地域協議会」というものが生まれれば、非常に理想的だなというふうには考えております。</p> <p>やはり、よりもっと多くの人たちに、その「地域協議会」の役割というものを周知・徹底させておいたほうが良いのかなと、いまは考えております。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p>
部会長(地域協議会部会)	<p>部会での、前回の議論の紹介を含めて、私なりに少し補足説明をさせていただきたいと思います。私なりのまとめ方ですので、もしそれは間違っているということであれば、ほかの部会のメンバーや事務局から訂正していただきたいと思います。</p> <p>一つは、今後のスケジュールということに関してですけれども、予算組みの関係もあって、まずモデル事業を前半戦にやっって「中間答申」を出し、その後、本格的な制度設計に入って最終的には「答申」を出す、ということにはなっているのです。</p> <p>しかし、モデル事業を考えるに当たっては、本格的な制度設計がある程度前提になっていなければいけないということがありますので、スケジュール的には一つ一つ、つづして行く、こなししていく形にはなっていますけれども、議論は一応行ったり来たりは避けられない、ということなのです。</p> <p>二番目ですが、行ったり来たりと言ってもそこには限度がありまして、と申しますのは、先だって区長に提出いたしました「中間報告」にも書いてありますけれども、少なくとも“設置エリア”ということに関して言いますと、それはおそらく3というエリアでもないだろうし、「地域区民ひろば」の22というエリアでもなくて、おそらく落としどころは“8から12”辺りということなのだろうと思うのです。</p> <p>そこで、エリアのイメージは8から12を前提としつつ、モデル事業を考えて行くということになるだろうと。</p> <p>そして、モデル事業に関しては、事務局側の説明では“区内全域で一斉に試行”するか“特定地域で先行的に試行”するか、これは部会で話し合ひましょう、という論点の紹介がありましたけれども、前回の部会の様子からしますと、必ずしも全域で試行ということ</p>

部会長（地域協 議会部会）	<p>ではない。そもそもモデル事業という言葉がそれにそぐわないことがありますけれども、“試行事業”ですから、全域で必ずやっていくというイメージではなくて、特定地域に関して、モデル事業の元々の意味ですけれども、先行して試行・実施して行く形になると思います。</p> <p>その場合に、先ほど申し上げた8というエリアの前提で分けをして、その1から8まであるなかの1の地域、2の地域でやる、というやり方もあるだろうし、12のエリアを前提として1の地域と12の地域でやる、というやり方もあるだろうと。</p> <p>あるいは、8の地域のエリア分けも前提とし、12のエリア分けも前提として、8の中の8番目と、12の中の12番目をやるということもあるだろうと、こんな議論がありました。</p> <p>おそらく、これは合意が取れている話ではありませんけれども、そうした元々のモデル事業の意味でやっていく、という形になるのかなという気はいたしております。</p> <p>そのモデル事業に関する「中間答申」を出し、予算組みがされ、来年度モデル事業をやるということになった、その後をどういうふうに行って行くかというのは、これはまだこれから議論も深めなければいけませんし、区役所側はもちろん、議会での議論になってくる話ですけれども。</p> <p>私が申し上げたところは、「中間答申」でモデル事業の案を出した後、制度設計をします。では、その制度設計に沿って再来年度、一気に8ということで行くのか、12ということで行くのか、そうではなくて8ではあるのだけれども、手を挙げた地域、正に目的がある、問題意識もある、土壌もできている地域でやっていくということになるのか。12の中でも、そういうことになるのか。悉皆方式・全エリア方式で8もやる、12もやるのか。そのところは、まだ議論が残された部分でもありますので、これから深めていかなければなりません。</p> <p>もう一つ付け加えますと、では「モデル事業で具体的にどういうことをやるか」というのはまだまだこれからということでもありますけれども、次回の部会以降で、これは地域協議会部会の専門委員（地域協議会部会）からも提案があったことですのでけれども、いわゆるワークショップ形式というのでしょうか、机の上で資料を見ながら書いていくだけではなく、委員が集まって一つの机を囲んで、その上で地図を見たり地域課題を拾ったりしながら議論をしていく、それでもっと具体的話を考える、こんな様子になると思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。先ほどA委員が言われた趣旨は、このようなことだったでしょうか。</p>
A委員	<p>はっきり申し上げて、私の認識では「地域協議会部会」は大変難渋してしまっていて、具体的な問題点にまだ入っていない状態だと思います。今後、もう少し具体的な問題をどんどんやっていかなければいけないと思っておりますが、現状のこの段階でまだぼんやりしていることが多いのです。議員の皆さんから見られて、どうお考えでしょうかとお訊きしたかったのですが、まだ漠然としているというご意見と、やはり同一のテーマがなければやっていくのは大変難しいだろうし、各地域にあるそれぞれの団体に対してまだ周知されていないといったご意見いただきましたので、そういうことを参考にして、もっと具体的な方向にして行くべきではないかと思いました。</p>

E委員	<p>部会長（地域協議会部会）のお話ししてお訊きたいのですが、ワークショップというのは、どういうものなのでしょうか。「地域協議会部会」の委員の方たちがやるのですか？</p>
部会長（地域協議会部会）	<p>具体的なものは決まっておりませんが、「地域協議会部会」の中で行う討議のやり方の例えとして、ワークショップという手法の提案があったので、申し上げました。</p>
E委員	<p>わかりました。</p> <p>私は「協働・政策部会」に所属しているのですが、議員の方々にご意見をお訊きたいのですが、前回の「中間報告」の内容についてどうお考えなのでしょうか。</p>
会長	<p>何か、特にこういう観点からというようなご質問があれば…。</p>
E委員	<p>やはり予算については、一番議員さんが深く関わっていらっしゃると思いますので、部会の中で我々はまず勉強して、それでその中から我々なりの疑問点とか、こうしたら良いのではないかという、ある部分素人のチームの中の意見でしたので、こういうふうに出したことに對して、議員の皆さんはどういうふうにお考えなのかなと思いましたので、ちょっとご意見をお訊きたいと。</p>
会長	<p>議會を代表してというようなことになる、それは難しいでしょうから、個人的な感想で良いのですね、議員である個人として。</p>
E委員	<p>そうですね。</p>
会長	<p>そういうご要望ですが、いかがでしょうか。</p>
C委員	<p>皆さんがたには、制度設計のところをやっていただいでいて、既存の補助金という考え方をもう一度見直してみようというものを議論していただいでいて、作り上げてきていただいでいるわけです。</p> <p>それについては、評価できますし、やはり皆さんがたのご意見が反映されることのほうが、頭ごなしに「こういう団体があるから補助金出しましょう」というのは問題があるという中で、新たな方向を考え出していただいでいるわけですが、これについては補助金等審査委員会等と整合性がとれるようになれば良いなというところです。</p> <p>ただやはり、いまいろいろと議論されている中で、皆さんがたが常に勉強していても、我々が傍聴に行けるときもあります、なかなか時間が取れなくて行けなかったりしますので、皆さんがそれぞれの部会で3回ほど議論された後に委員会が1回あり、そのときにこれまでの議論をまとめて聴かなければ、まともにお答えもできないこともあるわけですね。</p> <p>できるならば、議員としてこういう部会にもなるべく出るようしないといけない、もっと皆さんがたのお話しを聴かなければならないというのが、率直な感想なのです。</p> <p>お答えになっていないかもしれませんが、いつも皆さんがたにはいろいろご苦勞をお掛けして、ありがたいと思っております。</p>
E委員	<p>私たちが部会で議論していても、結構模索している部分が多いものですから、この間「中間報告」を出したことを、脇から見て議員さんはどういうご感想をお持ちになられたのか、ちょっとお訊きたかったのです。</p>

B 委員	<p>“補助金のあり方の見直し”については、C委員がおっしゃった通りだと思うので、様々の検討が必要だと思います。</p> <p>しかし、“基本計画・分野別計画の重点施策の見直し”は、相当難しいテーマです。議員にとっても難しいテーマなくらいです。基本中の基本の問題ですので、見方によっては、いろいろと変わってくるわけです。</p> <p>ですから、一概にこれが良いとか悪いとかいう見方ができるものでもないと思うのです。</p> <p>これをもって我々が審査に臨んだりしているから、この場では会派の意見を出すというものでもないだろうから申しませんが、重点施策の見直しについて、やはり区民ニーズの反映は非常に重要です。区民ニーズの抽出の仕方をちょっと誤ってしまうと、重点施策がどう変わるかという、アンケートの取り方一つで結果が変わってきてしまうのです。</p> <p>例えば高齢者の人たち中心だったら、高齢者の人たちは高齢施策中心にしてやってくれという話になりますでしょうし、若い世代にやったら、子育て支援策を一番重点にしてくれとか、ニーズが異なってくるわけです。</p> <p>ではどれを重点施策におくかという、非常に難しいテーマです。お金もついてくる問題です。ハードの面もあり、ソフトの面もある。</p> <p>だから、そこは一緒に考えながら議論して行く方向なのかなというふうに思います。</p>
E 委員	よくわかります。私たち部会の委員もそうだろうなと思って議論していますので。
D 委員	<p>私は部会に出いてませんが、「中間報告」は読ませていただいております。</p> <p>逆に質問いたしますけれども、いまの「区民活動支援事業補助金」について、項目ごとにご覧になったと思いますが、そのときにはどういったご意見が出たのでしょうか？</p>
E 委員	その補助金に対する各委員の意見は、毎回の「会議録」に詳しく出ていると思いますので、私個人のお話しというよりは、そこで出た意見は、部会の「会議録」をご覧ください。
D 委員	あと一点お訊きしたかったのは、“重点施策の見直し”に関して、財源との兼ね合いを我々はいつも気にするのですが、区民のかたがこれを考える際に、その辺の問題はどういうふうにお考えになったのかなと。
E 委員	それは、部会長にお話しいただいたほうが良いと思います。
部会長（協働・政策部会）	<p>まず、現在ある補助金については個別に見るのではなくて、むしろマクロ的に見ていまして、簡単に言えば「重要政策補助金」と「区民活動支援事業補助金」は、制度として大きな違いがあるということが、大きな点です。</p> <p>しかし、それが“評価”という点から見ても、あるいは、“なぜその金額か”という点からも、違いがあり過ぎるのです。はっきりよくわからないという、その制度自体にも問題があるのではないかと。</p> <p>現在ある二つの大きな差ではなく、もうちょっと新たな形で、全体の制度設計ができないだろうかという話とともに、いまある“補助金の枠”を広げるような形で、新たな第3のタイプとして「協働事業補助金」を創っていけないのかという感じで議論しています。</p> <p>個別の事業の審査については、別途「補助金等審査委員会」があって、そちらのほうが基本的に行うということで、この「協働・政策部会」では、むしろ細かいところは見ないことにしたという印象を持っています。</p>

部会長（協働・政策部会）	<p>もう一つ、重点施策の見直しですが、豊島区の「総合計画」の作りは、正に釈迦に説法になってしまいますけれど、必ずしも財源の枠を前提にしていくらいくら張り付けるといふ作りにはなっていないのです。</p> <p>あくまで、財源が増えるのを明確にするのではなくて、全体の中でどのような色をつけるのか、その濃淡をつけるというだけであって、具体的に金額がいくら張り付くかというのは、毎年の予算編成と、その前さばきにあたる毎年のプラン改定で張り付けていくということになっているので、その「重点施策」というのは、それをするときのウエイトの付け方をあらかじめ大まかに決めておきましょうということで、予算枠とは必ずしも連動しないしかけになっていると思います。</p> <p>ただ、むしろ問題になっていたのは、以前選んだ重点施策が、例えば“介護予防”が典型なのですが、それは前の「豊島区基本構想審議会」時代にも、介護予防を重点施策にするというのは、区民委員からかなり強い異論があって、しかも区民アンケートでも「介護予防よりも、いまあるサービスのほうを重点に」という声が強かったにもかかわらず、区があえて介護予防を選んだのです。</p> <p>しかし、その後、介護予防にあまり予算がついていませんし、必ずしも重点施策ではなくなってきたことがあります。</p> <p>当時、厚生労働省が介護予防に力を入れていたことに影響されて、区はそれを重点施策に選択したと思われるわけですが、やはり、結構それなりに区民の皆さんが議論した感覚というのは、意外にズレていなかったのかなと思います。</p> <p>実際に当時おられた議員の先生方からも、「介護予防も基本的には確かに大事であるのはわかるのだけれど、本当にいま困っている人のことに予算をつけなくて大丈夫なのか」という声もありました。</p> <p>当初選んだ重点施策自体が、やはり少しズレていたかなということなどを見直しながら、今回、3年毎の「区民意識調査」を踏まえて“重点施策の見直し”を行うということは、非常に重要なことであると思っています。</p> <p>確かに、その仕方は非常に難しく、むしろそれは本当に“区の政策判断”ですから、議員の先生方の感覚が最も区民ニーズを反映していると思うのですが、それと併せて、区民のニーズ調査というようなデータとか、あるいは、公募委員の生の感覚を反映していくと、追々ウエイトづけが選択できるのではないかというふうに思っていますので、是非、議員の先生方にも協力していただいて、うまい選び方を作ればなと思います。</p>
D委員	<p>というのが、部会の中で議論されている内容ですか？</p>
部会長（協働・政策部会）	<p>いいえ。部会の中では、そもそもまだ議論に入っていません。</p>
F委員	<p>いま、部会長が話しましたが、重要政策補助金と「区民活動支援事業補助金」は、8年前に決めたことがそのまま踏襲されていて、例えば、3億円の「重要政策補助金」と、2千万円の「区民活動支援事業補助金」とが、分捕り合戦をやっているという現状があります。</p> <p>しかし、時代が変わってきていて、危機管理・防犯・環境などといった課題が「重要政策」に位置づけられるべきであるにも関わらず、そういうものはみんな「区民活動支援事</p>

F 委員	<p>業補助金」で処理してしまっているという矛盾があるので、その仕組みと制度の見直しをしながら、“補助金のあり方”をこれから検討していこうというのが、現時点で議論されている内容なのです。</p> <p>「自治推進委員会」ができたことによって、一つでも具体的にこういった仕組みや制度が見直され、実現できたということがないと、我々委員が何をしてきたのだということになりますので、今後、議員の先生方のご指導をいただきながら、その辺りも慎重にご審議をいただきたいと思います。</p>
会長	<p>だいぶ中身に入った議論になっていますが、ご発言があればどうぞ。</p>
B 委員	<p>事務局にお願いという点では、「部会でこういう議論があったのだけれども、この辺はどうなのか」と整理した形で進めていただくと、一番ありがたいと思います。</p> <p>「補助金」の問題や「基本計画の分野別施策」の問題などは、非常に大きい問題です。区の「重点施策の見直し」といっても、例えば、先ほど「介護予防」の話をされましたが、国や東京都の影響は非常に大きいのです。介護保険事業でも、予防中心のようなものを国が出すと、区もそういうふうに、実態はそうでないところがあったとしても、やはりお金はそちらにつきますから、どうしても介護予防を重点にせざるを得なくなる場所があるのです。</p> <p>例えば、特養ホームなどもニーズから言えば、「千名も待機者がいるのだから、もっと造れば良いではないか」という議論になります。</p> <p>でも、実際に沢山造ろうと思っても、やはりお金のことが結構大変なのです。場所をどうするかとか、補助金はどうか。</p> <p>そういうこともあつたりするものですから、「重点施策の見直し」という問題も、相当難しいと思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。ほかに、中身の議論でどなたかご発言はございませんか？</p> <p><*各委員からの発言なし></p> <p>いよいよ、自治推進委員会も、2年次に入ってきているわけですが、これから先のやり方というのはなかなか難しい。具体性が増して来れば来るほど、粘着性が増してくるわけですから、そう簡単には行かないであろうということは予想されます。</p> <p>しかし、モデル事業の展開の仕方そのものを議論しながら進める時期にきていると思いますので、そういう段取りで大体よろしいかということと、それと同時に、各部会における議論などを、部会に出ているしやらない議員の先生方にも受身ではなくどういう議論なのかを是非知っていただきたいし、また、部会での議論をどう思われているのか等の具体的な質問を適時・タイムリーに事務局が確認していただきたい。</p> <p>ということで、いかがでしょうか。おおよそ、こういう流れで良いのだらうと思いますが、予算確保があるのだけれど、この辺どう具体化していくかということに関して、事務局としてのお考えがあればお願いします。</p>
区民部副参事	<p>いま、いろいろとご議論いただきまして、事務局としても本当にこれは難しい課題であり、現実に実現していくにはクリアしなければいけない課題が非常にたくさんあると認識しています。ですので、もちろんここで議論していることが即実現するかということも含</p>

区民部副参事	<p>めて、非常に問題点を感じておりますので、ごり押しして行うということではありません。議論を踏まえて、皆さんでもう一度考えていく形でお願いできればと思っております。</p> <p>そういった意味では、この委員会で議論されていることが一体どういうことなのかという庁内での意見調整が、具体的話になればなるほど必要になってくるかと思っております。</p> <p>そこで、本来でしたら昨年間に立ち上げて置くべきだったと思えますけれども、少し遅れてしまいましたが、「中間報告」をいただいたということを受けまして、その内容について庁内で周知を図りつつ、こちらの議論と並行して庁内の意見を調整させていくような組織を設けたいと考えております。</p> <p>参考資料としてお配りしておりますけれども、関係部課長で構成する「協働推進施策調整委員会」の庁内組織を設けまして、随時「自治推進委員会」での審議内容を反映させていくとともに、区としてどのように“協働”を進めていくか、という大きな“庁内調整”を図る機関として、動かしていきたいと思っております。</p> <p>この「自治推進委員会」と並行して「協働推進施策調整委員会」を動かしていきますが、随時、皆さんにその意見・動きについてもご報告しながら、進めて参りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>それではいまの件について何かございませんか。庁内体制を整備して、適時適切に対応していただくということです。次第2「各部会の検討課題について」ですが、スケジュールに関しては、この通りいけば理想型でしょうということです。これを目指して、全体をうまく行こうということで、ご承認いただけますでしょうか？</p>
	<p><出席者全員、異議なし></p>
会長	<p>ありがとうございました。それでは、これを目標にして各部会におきましてよろしく願いいたします。続きまして次第3について、事務局からご案内お願いいたします。</p>
自治協働推進担当係長	<p>3. その他</p> <p>先月の「協働・政策部会」で課題の整理を行っていただいたのですが、かなり検討すべき課題が多いということで、集中的に議論をする機会を持ちたいというご提案が部会員の皆さんからありまして、来週の金曜日に「自主検討会」を開催することになりました。</p> <p>所属部会員以外の方でも自由にご参加いただけますので、ご希望の方は事務局にご連絡いただきたいと思います、</p>
会長	<p>ご希望の方、よろしく願いいたします。</p> <p>今日用意された議題は以上ですね。事務局の連絡事項も良いですか。委員の皆さんは、何かご発言ございませんでしょうか。それでは今日の会合は、これで閉じたいと思います。</p>
会長	<p>4. 閉会</p> <p>どうも皆さま、今日はありがとうございました。</p>
会議資料	<p>会議資料7-1 次第</p> <p>会議資料7-2 各部会の検討課題とスケジュール（案）</p> <p>その他（参考） 協働推進施策調整委員会の設置について（案）</p>